

# ヤマコン 工期短縮や生産性向上へ

## 国内最長級46mポンプ車を導入

コンクリート圧送業のヤマコン（山形市 佐藤隆彦代表取締役社長）は、国内最長クラスの46・0mブームを備えた超大型コンクリートポンプ車を導入し、26日に本社駐車場で納車式を執り行った。同社では同じ型のポンプ車を2018年にも

納車しており、今回で2台目となる。

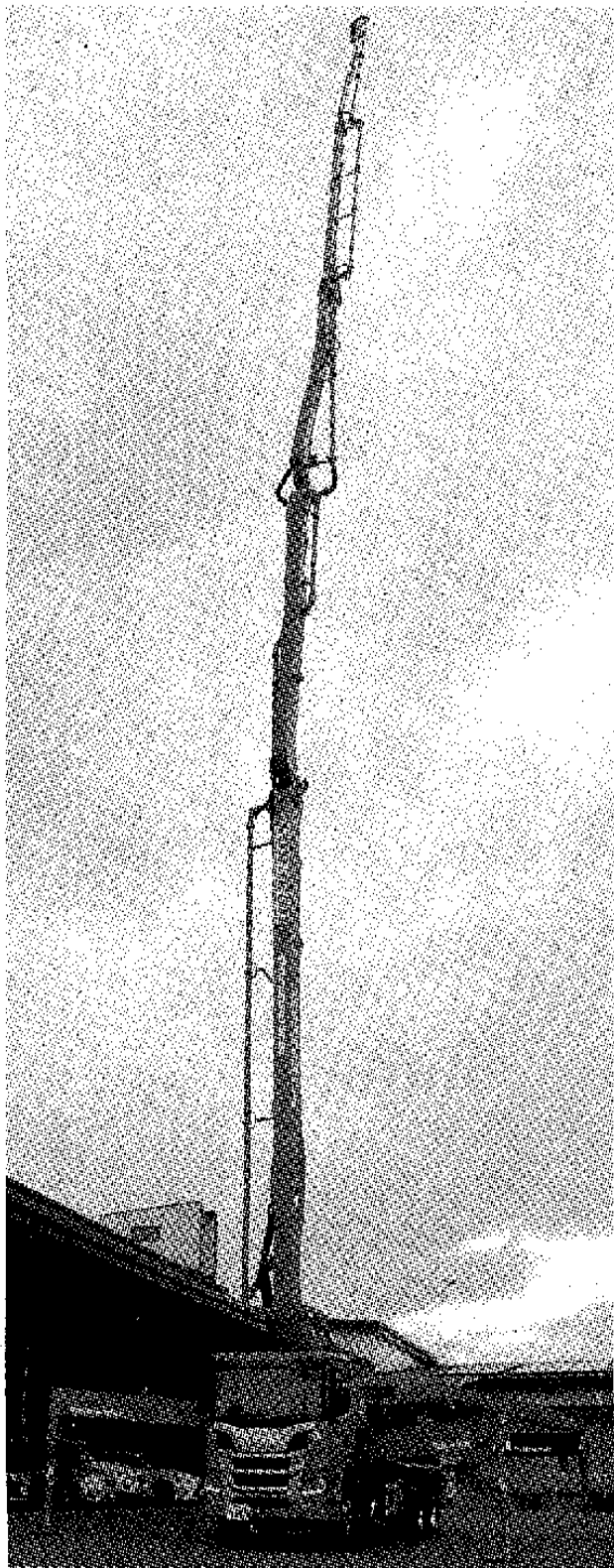
購入費用には、同社が6月に取得した日本政策投資銀行の「BCM格付」による融資制度を活用。近年、再開発事業が活発化している首都圏を中心とした関東地域での使用などを目的に導入した。

車両は、ドイツに本社を置くプツマイスター社製。ブームが長いにも関わらず車両はコンパクトに設計されているため、さまざまな現場に対応できることが大きな特徴となる。車両の諸元は全長12・0m、全幅2・5m、全高3・8m、総重量は約32・5t。また、ブームは最大垂直リーチ45・5m、最大水平リーチは40・5m、最大下方リーチ32・8mで、最大吐出圧は8・5Mpa、1時

間当たりの最大吐出量は160立方mにも及ぶ。

26日の納車に合わせてプツマイスタージャパンの岡勇樹代表取締役社長が同社を表敬訪問。岡社長は「弊社が日本で販売している中でも最長のポンプ車となる。建築のみならず、土木でも大いに力を発揮するだろう」と話した。佐藤社長は「国内最長級のブームを備えているので施工範囲が本来に幅広い。工期短縮はもちろんのこと生産性向上にもつながり、働き方改革に寄与するものとなるだろう」と語った。

なお、同型のポンプ車は東北では同社のみが保有しており、1台目は東京オリンピックメインスタジアム（新国立競技場）や東日本大震災復興道路の建設現場などでも活躍していた。



納車された46mブームポンプ車